

史跡芥川城跡保存活用計画

【概要版】



高槻市
令和 8 年(2026)3 月

1. はじめに

あくたがわじょうあと

(1) 史跡芥川城跡について

芥川城跡は、三好山（高槻市大字原）に築かれた戦国時代の山城跡で、城域は摂津国最大規模を誇る東西約500m、南北約400mに及びます。芥川が作り出した急峻な地形を利用して築かれ、曲輪や堀切などの城郭遺構が良好に残ります。

芥川城は、永正13年(1516)までに室町幕府の管領で摂津国・丹波国守護の細川高国によって築城されました。天文22年(1553)に三好長慶が入城して以来、芥川城は天下人の城として畿内支配の本拠となりました。永禄11年(1568)には三好氏を追った足利義昭と織田信長が入城し、新たな天下支配の枠組みを整えました。

高槻市は芥川城跡の総合調査を実施し、その成果に基づき、芥川城跡は令和4年(2022)11月に城域のうち西曲輪群及び中央曲輪群を主とする範囲が国史跡に指定されました。

(2) 公有化と活用の取組み

- ・ 史跡指定地の公有化事業（令和6年度(2024)～）
- ・ 歴史講座などの普及啓発イベントの開催（平成30年度(2018)～）
- ・ 御城印、武将印の頒布（令和2年度(2020)～）
- ・ アプリ「AR 芥川城」の配信（令和5年度(2023)～）
- ・ 市立しろあと歴史館常設展示「芥川城と三好一族」の開設（令和6年度(2024)～）
- ・ 普及啓発パンフレットの配架

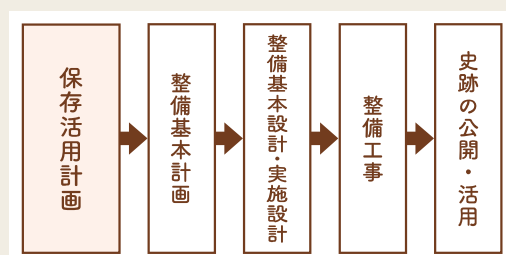


御城印・武将印

(3) 保存活用計画について

芥川城跡を将来にわたり適切に保存・継承のうえ、活用していくために、「史跡芥川城跡保存活用計画」を策定しました。本計画では、史跡の本質的価値に基づき、今後の保存（保存管理）、活用、調査研究、整備、運営・体制の基本方針を定めました。

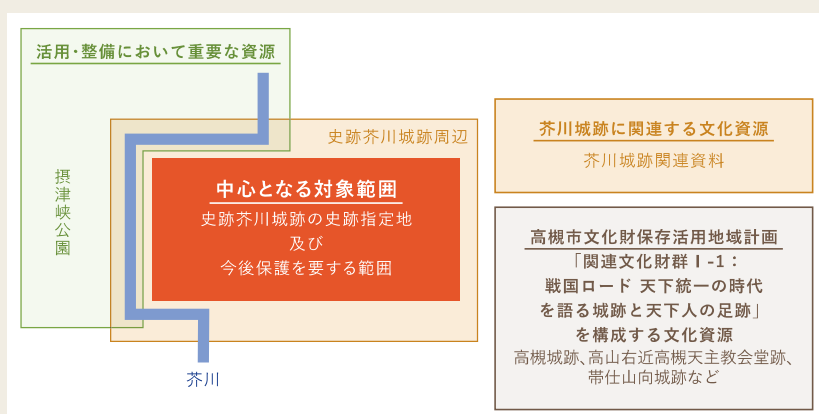
計画期間：令和8年度～17年度（2026～2035）



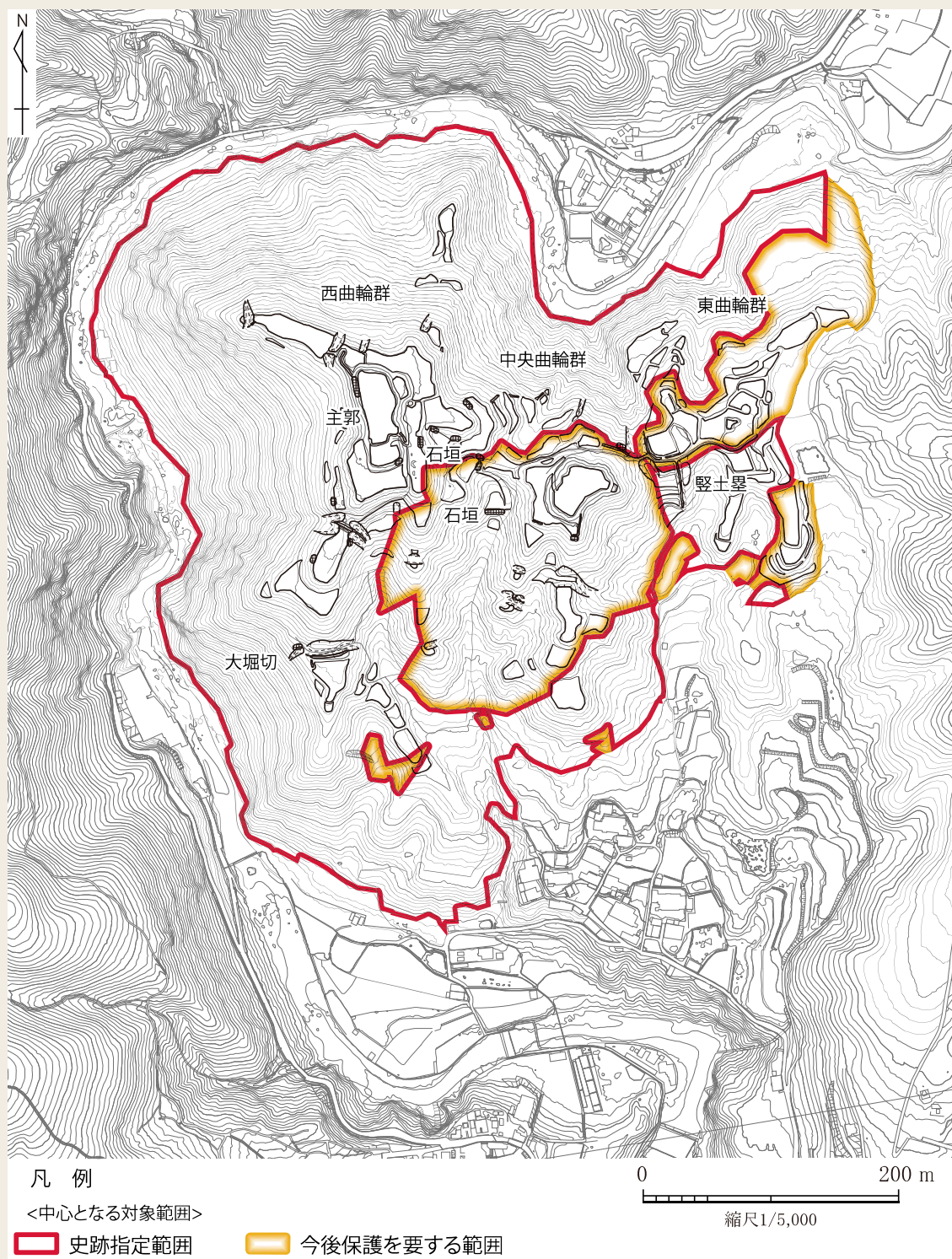
整備の流れ

(4) 計画の対象範囲

史跡芥川城跡及び今後保護を要する範囲（芥川城として一体的な城郭機能を構成していたと考えられる区域）を中心とします。また、活用・整備において重要な資源（摂津峡公園など）、芥川城跡に関連する文化資源（芥川城跡関連資料）、高槻市文化財保存活用地域計画の関連文化財群（高槻城跡など）との一体的な保存や活用を図ります。



計画の対象範囲



史跡指定範囲及び今後保護を要する範囲

芥川城跡は、地形によって西曲輪群、中央曲輪群、東曲輪群に大きく分けられます。曲輪は陣地や居住のために設けたもので、総数60以上あり、周囲には曲輪への侵入を防ぐ虎口と土塁、尾根伝いの移動を妨げる堀切などが設けられています。

2. 史跡芥川城跡の本質的価値

芥川城跡の歴史的価値

①戦国時代の大規模な山城遺構が良好に残存し、築城～機能停止の時期が確認できること

三好山の地形を巧みに利用した天然の要害で、東西500m、南北400mに広がる、摂津国で最大規模の山城跡です。城郭遺構が良好に残り、文献史料と考古資料の双方から、築城～機能停止の時期を確認することができます。



堀切

②首都京都に代わる畿内政治の政庁であり、三好氏による先進的な政治の舞台となったこと

室町幕府管領の細川高国が築城し、戦国時代の政治動乱の中で京都をうかがう勢力の拠点となりました。その後、畿内を実力で支配した三好長慶が居城とし、芥川城は首都京都に代わる畿内政治の政庁に発展しました。



文献史料

③戦国時代に権力の拠点となった山城での人々の活動が具体的に把握できること

文献史料には三好氏や家臣の居住、文書発給や連歌会などの活動の記録が残っています。また、発掘調査での建物跡の発見、文具や茶道具などの発見からも、山城での生活と、政務や文芸活動の一端がうかがえます。



硯

④^{しよくほうけい}織豊系城郭以前の畿内における拠点城郭の構造がわかり、その到達点として評価できること

芥川城への石垣、礎石建物、瓦の導入は、戦国時代後期の畿内の拠点城郭として先駆的な事例です。高石垣や瓦葺の礎石建ちの天守に代表される織豊系城郭の特徴的な要素が部分的に出現したと評価できます。



石垣

史跡芥川城跡の本質的価値

- ・戦国時代後期に石垣、礎石建物、瓦を先駆的に採用し、織豊系城郭が成立する以前の山城の構造がわかる摂津国最大規模の山城跡
- ・築城から機能停止までの時期、城内での政治や文化活動が文献・考古双方の見地から確認できる山城跡
- ・首都京都に代わる政庁として、戦国時代後期の三好長慶らによる政治の舞台となった山城跡

3. 大綱

芥川城跡の価値を大切に守り、
歴史の魅力を広く発信し、
地域が誇る戦国時代の山城を活かし伝える

4. これからの保存と活用の取組み

(1) 保存（保存管理）

- ・城郭遺構や遺物の確実な保存を図るため、現状保存を基本とし、劣化・毀損した遺構の復旧方法の検討などの遺構保存の取組みを進めます。
- ・毀損の防止や早期発見のため日常管理の取組みを行います。
- ・遺構への影響を防ぐため自然環境の保全や、眺望などの景観保全に取り組みます。
- ・災害や獣害による遺構や人への被害を防ぐための取組みを進めます。
- ・現状変更等の取り扱い方針・基準に基づき、史跡の恒久的な保存を図ります。
- ・芥川城跡の一体的かつ円滑な保存・活用を図るため、史跡の追加指定や公有化を進めます。



見学路の修繕

(2) 活用

- ・芥川城跡の本質的価値を啓発するため、公開、教育・普及の取組みを行います。
- ・見学者の安全に配慮しながら遺構の公開、調査成果に基づいた出土遺物、文献史料の継続的な展示などを進めます。
- ・広報誌、SNS など多様な媒体を用いた情報発信、シンポジウムや歴史講座の開催などを進めます。
- ・郷土への親しみにつながるよう市民向けの出前講座や郷土学習・出前授業等の教育・普及啓発の取組みを行います。
- ・関連文化財群や近隣の観光資源との周遊性向上のため、周遊ルートの構築を進めます。
- ・市観光部局、関係機関、市民団体との連携により、観光振興など多様な活用を進めます。



しろあと歴史館での展示

(3) 調査研究

- ・芥川城跡の未解明の課題を究明し、本質的価値をさらに高め、適切な保存・活用を図っていくため、現地踏査・レーザー測量、考古学的調査、文献調査に取り組みます。
- ・芥川城跡周辺の地域や自然的環境を対象とした調査研究に取り組みます。
- ・審議会（検討委員会）の指導・助言を得て調査研究を計画・実施します。



主郭周辺の発掘調査

(4) 整備

- ・史跡の本質的価値を多くの人に伝えるため、安全に見学できるように整備を行います。
- ・遺構の保存のため、保護や復旧の方法、植生管理や植栽の方法について検討します。
- ・調査成果等に基づいた建物の位置表示や復元整備など、城郭遺構の整備を進めます。
- ・見学路や便益施設などの見学環境の整備、サイン類やデジタルコンテンツの整備に取り組みます。
- ・周辺環境へ配慮し、近隣の文化資源・観光資源と連携するため、橋などの新たなアクセスルートの整備を検討します。



復旧後の見学路

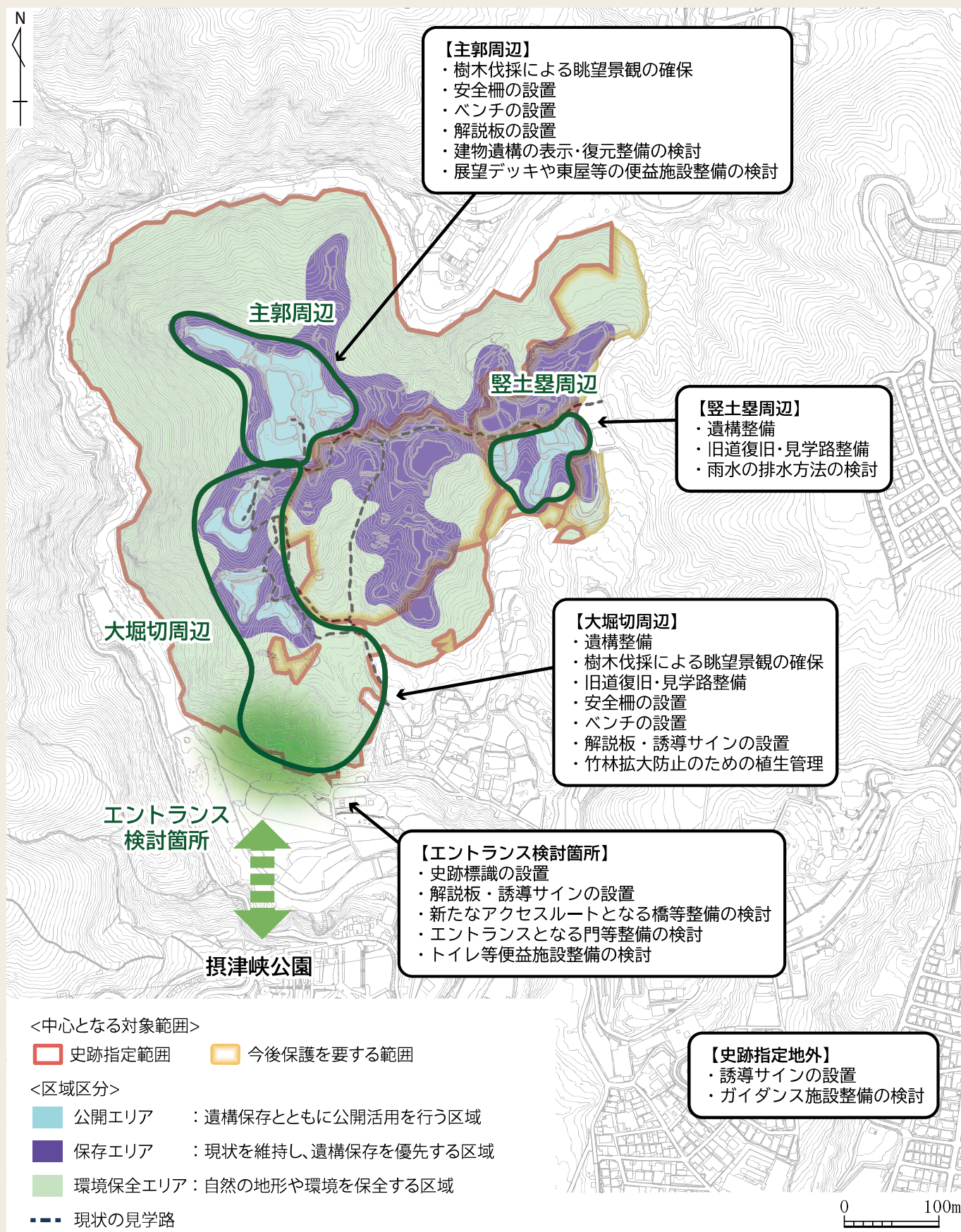
(5) 運営・体制

- ・芥川城跡のよりよい保存・活用に向けて、史跡の管理団体である高槻市が中心的な役割を担い、土地所有者や地域住民、有識者、関係機関や関係部局が連携・協力し、取組みを着実に推進する体制を構築します。
- ・有識者で構成される審議会（検討委員会）の指導・助言のもと、計画を実施します。



芥川城跡からの眺望

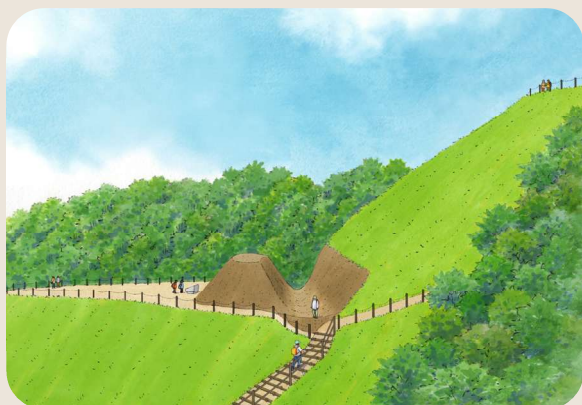
5. 将来的な整備イメージ (※本計画策定段階)



整備イメージ (※将来イメージのため、変更する可能性があります。)



南側からの鳥瞰



大堀切



史跡エントランス

史跡芥川城跡保存活用計画【概要版】

発行日 令和8年(2026)3月
発行 高槻市
問い合わせ 高槻市立埋蔵文化財調査センター
〒569-1042 大阪府高槻市南平台五丁目21-1
TEL: 072-694-7562

詳しくは本編冊子をご覧ください。